

別紙第 2 様式

医学系研究に関する情報の公開について

研究機関名 *	社会医療法人 若弘会 若草第一病院
研究課題名 *	ICU における経腸栄養プロトコル導入効果の検討
所属科 *	ICU
研究責任者 *	藤谷 扶美江
研究実施期間	開始 西暦 2020 年 4 月 1 日～ 終了 西暦 2023 年 3 月 31 日 (予定)
対象疾患 (予定症例数)	
研究対象となる治療・手術・検査の時期	自 西暦 2020 年 4 月 1 日 ~ 至 西暦 2023 年 3 月 31 日
研究概要 *	<p>【目的】 多職種での栄養介入は早期栄養開始を実現しているが、消化管不耐症による栄養中断や、低いエネルギー充足率など栄養開始後の問題も山積している。そこで栄養中断を回避し、早期のエネルギー充足を目指して経腸栄養プロトコル（以下プロトコル）を作成した。その導入後の効果を検討する。</p> <p>【方法】 研究対象は 2020 年 4 月～2023 年 3 月までに ICU に入室し、経腸栄養を開始する全 140 例とし、プロトコル導入前を A 群、導入後を B 群に振り分けた。 ICU 入室 48 時間以内に腸管使用の可否と経腸栄養開始時のプロトコル使用を医師に確認した。除外患者は消化管機能不全と血行動態不安定の 2 項目のみとした。目標エネルギー量と栄養剤は主治医又は NST が決定した。消化管不耐症の有無を確認し、プロトコルに沿って投与速度や量を調整し 1 週間以内の目標達成に向け毎日カンファレンスで検討した。観察項目は年齢、性別、重症度スコア (SOFA スコア)、経腸栄養開始時期、24 時間及び 48 時間以内の経腸栄養開始割合、70%エネルギー充足期間、入院期間とし、両群間の統計処理を Excel 統計分散が等しくないと仮定した t 検定で実施し、p 値<0.05 で有意差ありとした。また経腸栄養患者の経口摂取移行も同時に調査し単純集計後比率処理し</p>

	<p>た。</p> <p>【結果】 1 週間以内の 70%エネルギー充足達成率は平均 42.5%から 67.6%に上昇し p 値 0.0457 と有意差を認めた。また充足達成日数も 9.02 日から 4.78 日へ短縮した。臨床経過では平均在院日数や死亡率に有意な改善は認めなかった。経腸栄養患者の経口摂取移行率は 31.5%から 34.33%へ軽度上昇がみられた。</p> <p>【考察】 プロトコル使用は栄養処方 of 早期実現と速やかなエネルギー充足に効果があったと考える。またエネルギー充足により経腸栄養患者の経口摂取移行は僅かに上昇し、口腔フレイル予防に寄与した可能性がある。</p> <p>【結論】 プロトコルの使用は経腸栄養開始までの日数短縮と、エネルギー充足の速やかな達成に寄与した。</p>
倫理的配慮・個人情報の保護の方法について*	本研究では発表にあたり、データ処理では記号化して個人が特定されないよう配慮し、研究発表により患者への不利益が生じないよう配慮した。
研究の問い合わせ先*	若草第一病院 ICU 病棟 代表者 藤谷 扶美江 電話番号：072-988-1409

* 記入必須項目